

主任コラム8月号

主任 澤井 良子

毎日、暑い日が続いていますが、子どもたちは水遊びや夏ならではの遊びで元気いっぱいです。

2階の0・1歳児クラスでは、言葉のやりとりは少しずつ出てきましたが、保育士やお友達の表情を読み取って言うことがわかり、仕草で「○○ちゃんの場所はここだよ」と教えてくれたり、お友達を呼んできてくれたりする姿がみられます。自分のことよりも、お友達のお世話をしたい！という姿や、保育士の真似事や（午睡の寝かしつけをお人形で使って再現をする）、お友達と一緒に何かをするという場面がみられ成長を感じました。2歳児クラスでは環境が変わりました。身体を動かすことが大好きな子が多いので給食コーナーをホールに移動し、お部屋の給食コーナーのところに巧技台やマットを用いたり、牛乳パックや空き缶で作った缶ぽっくりで身体を動かしたりと動のゾーンを作りました。子ども達の日々の発達や姿に応じて環境を職員同士で話し合い、子ども達が遊びにじっくり集中できて環境になったようです。幼児クラスでは、給食のセミバイキングを2つのランチルームの好きな部屋で、誰と・どの部屋で食べるのかを選択できるようになりました。今までは異年齢のグループの部屋に分かれ、席も決まっていたましたが、子ども達自身が決められることにより、人数が沢山重なった時には譲ったり、友達を誘ったりしながら選択ボードの前で話し合いながらランチルームに向かう姿がみられます。

ある日の午前中のことですが、2歳児の数人が幼児クラスに遊びに来ていました。ゾーンで遊び、2歳児の保育士が「給食だから部屋に帰ろう」と伝えようと2歳児のA君は『いや』と言って帰ろうとしました。その様子を一緒に見ていた幼児クラスの保育士がA君に理由を聞き、もっと遊びたかったことと、給食をきょうだいのいる幼児クラスで食べたいということをA君は伝えました。それを幼児クラスの保育士と2歳児クラスの保育士が聞きA君の思いを受け止め、A君は幼児クラスのお友達と給食を食べたら、気持ちも満たされたのか午睡は自分のクラスへと帰っていくということがありました。

私はこの話を聞いて、A君の思いを聞いて2歳児・幼児の保育士が受け入れてあげられる環境を作ってあげたことがすごいなと思いました。勿論、なんでも子どもの要求を満たしてあげればいいというわけではありません。けれども、その日のA君の心情や姿・関わりなどの様子を見てきた保育士同士だからこそ思いを汲み取ってあげたのかなとも感じると共に、保育所保育指針にも書いてある【子どもの相互の関係づくりや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること＝関わりを大切にする保育】だと思いました。子ども達は自分の意見や思いを言い受け止めてもらえるという体験をし、（ダメなことはダメだと気持ちを聞いたうえで、子どもが納得するように伝えることもしています。）保育士は子どもたちの発達・成長をよく見て、個々を大切にしながら保育していくということを大事にし、どのクラスの保育士も連携をとりながら全職員が思いを1つにながさわ保育園の子どもたちが【現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す基礎を培えるように】保育していきたいと思います。

笑顔あふれる子どもの姿

